

検 疫 の 話 題

空 港 に お け る 植 物 検 疫

近年、航空機の発達と輸送網の拡大、需要の多様化により、航空機による植物の輸入が増加しており、特に成田、伊丹等の主要国際空港における航空貨物は激増している。これらの空港には多くの貨物専用便が就航しており、輸入される植物は、下表のとおり切花を主体に果実、野菜、種苗等が多く、いずれもここ2～3年の間に急増している。

種 類	52 年	54 年	56 年
切 花・苗 木・穂 木	28,731千本	71,658千本	95,430千本
生 果	3,317 t	6,102 t	7,104 t
野 菜	824 t	2,284 t	3,271 t

一方、航空機の大形化とともに海外からの旅客数も年々増加しており、これに伴って旅行客の携行する生果実、切花、苗木等植物の種類、数量とも増加している。

これらの航空貨物や、旅客が携行する植物に付着する病虫害は、外国から短時間で持ち込まれるため、活力ある状態であったり、卵態のような発見し難い状態であることがあり、その検査には細心の注意を必要とする。また、一部の心得のない旅行者により輸入禁止植物が持ち込まれる例も多く、これらの植物を廃棄するまでの寄生確認調査の結果では、我が国が特に侵入を警戒する病虫害が頻繁に確認(下表)されている状況下において、空港検疫の重要性は益々増大している。

主な発見対象害虫	52 年	54 年	56 年
チチュウカイミバエ	2 件	3 件	- 件
ミカンコミバエ	51	79	63
ウ リ ミバ エ	2	8	1
アリモドキソウムシ	2	-	4
コ ド リ ン ガ	-	-	2

海 外 の ニ ュ ー ス

フリ胴枯病の新しい生物的防除法

フリの重要な病害である胴枯病は、我が国にも広く分布し被害をおよぼしているが、欧米における被害はさらに激しいものである。本病の病原体は糸状菌の *Endothia parasitica* で、東洋原産である。本菌は苗木とともにアメリカに侵入し、アメリカフリに全滅に近い大被害をもたらした後、ヨーロッパ大陸に飛火し、ベルギー、イタリアなどのヨーロッパフリにも大被害をあたえている。このフリ胴枯病に対して、従来にない全く新しい防除法の試みが報告されているので紹介する。

最近、イタリアの本病に罹病したフリで、病徴が回復し樹皮上のかいよう症状もゆつくりと治癒している樹が多く認められる様になった。その原因を調べて見ると、菌類に感染するウイルス(Mycovirus)の一種が病原菌の *E. parasitica* に感染し、その病原力を著しく低下させていることが明らかになった。このウイルス感染を受け病原力の弱くなった菌株が、イタリアでは自然条件下で広まっているという。

従来、この *E. parasitica* のウイルスは菌を継代培

養するうちに排除されてしまい実用的ではなかったが、この度コネチカット州立農事試験場のS.L. Anagnostakis は、次のような報告を行った。即ちイタリアとフランスで分離されたウイルスより抽出した核酸は、病原力の強い(ウイルスに感染していない)菌株に感染して病原力を弱くする。この核酸は病原力の弱まった菌株から、アメリカフリより分離された病原力の強い6系統の菌株に伝搬して、これらの病原力を弱くする。いったん病原力の弱くなった菌株は継代培養を繰り返しても再び病原力が強くなることはない。

この結果、これらのウイルスに感染した菌株を利用したユニークな生物的防除の道が開かれた。

※ Plant disease Vol.65 No.12 (1981) (病菌課 西尾健)

※訂正 前第8号4頁写真提供者「佐賀大学農学部 田中欽二氏」と「島根県農試 石井卓爾氏」が入れ替っており、また8頁上の表中、57年度富山県の発生面積「130」は「10」の誤りでした。

発行所	横浜植物防疫所
	〒231 横浜市中区北仲通5-57 横浜農林水産合同庁舎 ☎045(211)2299
発行人	江口照雄
編集責任者	松延正弘
印刷所	保土ヶ谷印刷株式会社
	横浜市中区北方町2-96 ☎045(621)3347